特別支援教育　高等部　第２学年　保健体育科学習指導案

　　　　　　　　　　期日：令和３年１０月２９日３校時

　　　　　　　　　　　高等部２年１組～６組　（男子２１名、女子７名）

　　　　　　　　　　　　　　　　場所：都城きりしま支援学校体育館

指導者：丸田　奏絵（T1）　 　 池上　千紗 （T2）

 米澤 　 翼（T3）　 外山　晴子 （T4）

飛高　祐治（T5） 　 中村　友生 （T6）

　　　宮内　浩樹（T7）　 桑畑周一郎 （T8）

　　　　　　　　　　　　　　　 山田　雅彦（T9） 別府　佐和（T10）

１　単元名　「バスケットボール」

２　単元の目標

（１）　球技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に　　　応じた技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができるようにする。

　　（知識及び技能）

（２）　球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを他者に伝えることができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

（３）　球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動することができるようにする。

（学びに向かう力、人間性等）

３　運動の一般的特性

本単元は、特別支援学校高等部学習指導要領「保健体育　Ｅ　球技」の単元である。球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに喜びや楽しさを味わうことのできる運動であり、ゴール型、ネット型、ベースボール型などで構成される内容である。

球技の学習指導では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することが求められる。また、基本的なボールや用具等の基本的な操作と仲間と連携した動きで攻防を展開することを学習する。その際攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取組方法を工夫するとともに、考えたことを他者に伝えることができるようにすることも求められる。

４　生徒の実態

1. 運動に触れる楽しさの体験状況

本グループは、高等部２年生通常学級２１名、重複障がい学級７名、計２８名（男子２１名、女子７名）の学習グループである。知的障がいだけではなく、肢体不自由の有する生徒や聴覚障がいのある生徒など、障がいの状態や程度は様々である。体を動かすことが好きな生徒が多く、通常学級の半数以上の生徒が運動部の同好会に所属しており、週３日の放課後活動の中で、体力の向上や競技力向上を目指している。しかし、一方で、運動経験が少なく、自分から体を動かすことに消極的な生徒も見られ、運動経験の差が大きい。

　　これまでの保健体育の授業では、各領域において、障がいの状態や発達の段階、用具や施設等に考慮したグループ活動を中心に行ってきた。集団の中で役割をもたせ、仲間と協力して活動に取り組む責任感や連帯感を意識させることで、仲間と言葉を掛け合って運動を楽しむ姿が見られるようになっている。

1. 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

これまでの学習を通して、「知識及び技能」に関しては、各領域のオリエンテーションや体育理論の中で、運動の特性や知識等を学んできた。映像や音声を効果的に活用することにより、体育や保健に関する知識・技能について、少しずつ興味や関心を抱くようになってきている。

　　「思考力、判断力、表現力等」に関しては、グループ活動の中で、課題解決に向けて話合う活動を重ねてきた。しかし、障がいの特性やこれまでの経験、失敗などから自信がもてず、自分の意見や考えを上手に伝えることができなかったり、新しい関係を築いていくことに不安があったりする生徒が多い。しかし、タブレット端末で作成した教材や学習カードを使用して話合いを進めていくと、少しずつではあるが話合いに対して意欲的な態度が見られるようになってきた。

　　「学びに向かう力、人間性等」に関しては、仲間と積極的に関わりをもつことを意識し学習に取り組んできた。少しずつではあるが仲間を意識するようになり、支援を必要とする仲間の手を引いて優しく言葉を掛けたり、互いに教え合ったりする場面も見られるようになった。しかし、主体的に取り組むという面ではまだまだ課題が残っている。

1. 体力の状況（令和３年度　新体力テスト項目別結果一覧）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 男子 | 女子 |
| 段階 | A | B | C | D | E | A | B | C | D | E |
| 人数 | ０ | ０ | ３ | ３ | １４ | ０ | １ | ０ | ２ | ４ |
| 割合（％） | ０％ | ０％ | １５％ | １５％ | ７０％ | ０％ | １４％ | ０％ | ２９％ | ５７％ |

体力テストでは、どの種目でも宮崎県平均よりはかなり下回っておりほとんどの生徒がＤやＥ評価である。個人の結果は、「キリスポファイル」（体育学習カード）に綴じて変容を確認する時間を設け、足りない技能などを確認している。

前年度の３月に体育の授業に関するアンケートを実施した。そこでは、約８割の生徒が体育の授　　　　業が好きであると回答している。本校には、バスケットボール同好会、陸上競技同好会（長距離・短距離）の同好会活動がある。１年生の時は、７人しか同好会に所属していなかったが、2年生になっておよそ半数の１３人が同好会に入部した。同好会の入部率を見ても、少しずつ運動に自ら楽しもうとしている生徒が増え、少しずつ運動に対して意欲が変わってきている。

５　学習を進めるに当たって

本単元の指導に当たっては、卒業後のスポーツライフを意識した授業を取り入れたいと考える。ICT機器の一つであるタブレット端末を活用することで、卒業後もいつでも学び、運動やスポーツに親しむことができる態度を育てていきたい。新型コロナウイルス感染症の影響で、自宅にいる時間が長くなっている生徒にとって、自主的に運動やスポーツができる環境を整えることは、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てることに繋がると考える。また、高等部は、保健体育の授業を行うことができる最終段階である。卒業後は、それぞれの生活環境が大きく変化することが予想されることから、在学中に自分の体力や生活に応じた運動を行い、運動習慣を確立させることは、健康の保持増進と体力の維持向上に繋がり、実生活に役立てることができると考える。そのためには、様々な運動を経験し、チームスポーツの楽しさや喜びを感じ、生徒が「体育の授業で行ったスポーツがまたしたい。」という気持ちになることが重要である。

今回は球技の「バスケットボール」について取り上げた。バスケットボールは攻守が激しく入れ替わるスポーツであり、ドリブルやシュートなどの個人技能を生かした攻撃とチームで作戦を考えて伝えるなどの集団技能が必要となるチームワークが重要である。そのため状況に応じたボール操作を習得し、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことの楽しさや喜びは大きい。その中でチームの課題に気付き、その課題に対してどのようにすれば解決できるのか他者と協力しながら考えることが求められる。指導に当たっては、球技の学習に自主的に取り組み、作戦についての話合いに参加することや、一人一人の技術や能力の違いに応じたプレイなどを認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにすることが大切である。

さらに、指導に当たっては、グループ活動を中心に行うことで、運動の楽しさや喜びを味わい、授業に主体的に取り組めるように、グループ内で役割を決めさせ、自分の役割を積極的に引き受け、責任を果たそうとする態度を養っていきたい。また、グループで練習を重ねることで、連帯感を高め、グループや自己の課題を発見し、励まし合ったり、課題解決に向けてアイディアを出し合ったりする対話的な学びで、仲間と関わる協同的な学習を展開したい。

そこで、本時の指導に当たっては、導入部分で、ウォーミングアップ係を中心に、競技の特性に合わせた準備運動を考え実践させたい。体つくり運動で取り組んだ「リズムジャンプ運動」を行い、運動量の確保や心身の健康の保持増進を図りたい。生徒の主体的な活動を促すために視覚的に分かりやすい学習カードを準備し、怪我の防止に努めていきたい。また、生徒の安心安全を第一に考え、換気や消毒など新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、授業を展開していきたい。

展開では、「みんなで話し合って、グループ（個人）のプレイを分析しよう。」を目標に授業を行う。まず、ミニゲームを実態別に行い、その様子をタブレット端末で動画撮影する。その際、幅広い実態の生徒が「知る、する、みる、支える」の観点から、全員がそれぞれの役割でゲームに関わることができるように工夫したい。今までの学習を振り返りながら、自分たちに必要な技能について考え、課題を確認させた後、ワークシートの観点を基に課題発見を行う。「パス」、「シュート」、「ボールを保持した回数」の三つの項目を中心に話し合い、言葉を交わしたり、言葉を掛け合ったりして、コミュニケーション能力を身に付けさせ、チームスポーツの良さを引き出したい。まとめでは、グループの分析結果の発表や仲間と協力して話合いができたかを振り返らせる。その後全体での振り返りを行い全員で共有する。今後は、今回の分析結果を基に課題に応じた練習メニューを実践し、ゲームでの勝敗やバスケットボールの楽しさや喜びを感じることができる授業にしたい。

６　単元の評価規準

〇単元の評価規準　（特別支援学校高等部学習指導要領より）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 高等部2段階(A・Bグループ) | 高等部1段階（Cグループ） |
| 知識・技能 | 球技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、ゲームを行うことができる。 | 球技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができる。 |
| 思考・判断・表現 | 球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを，目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 | 球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えることができる。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすることができる。 | 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすることができる。 |

〇　　学習活動（2年時）に即した評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 高等部2段階(A・Bグループ) | 高等部1段階（Cグループ） | 常時支援を必要とする生徒（Dグループ） |
| 知識 | * 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、教師の例示を基に言ったり書き出したりしている。（A－１）
 | ・球技には、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、選択肢から選び、言ったり書き出したりしている。（A－１） | ・球技には、友達と力を合わせてゲームをしたり体を動かしたりする運動があることを知り、球技の楽しさや喜びに触れている。（A－１） |
| ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を教師の例示を基に挙げている。（A－２） | ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を選択肢から選んで挙げている。（A－２） | ・球技には、ボールをつく、転がす、投げる、当てる、蹴る、捕るなどのボール操作があることを知り、学習した具体例を教師と一緒に選択肢から選ぶことができる。（A－２） |
| 技能 | ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。（B－１） | ・ゴールに体を向けてシュートを打つことができる。（B－１） | ・教師の指示や支援を受け、ゴールに体を向けてシュートを打つことができる。（B－１） |
| ・マークされていない味方にパスを出すことができる。（B－２） | ・近くにいるフリーの味方にパスを出すことができる。（B－２） | ・味方にボールを手渡したり、パスを出したりすることができる。（B－２） |
| ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。（B−３） |  |
| ・パスやドリブルなどでボールキープすることができる。（B－４） | ・相手に捕られない位置でドリブルをすることができる。（B－４） | ・ボールを見ながら連続でドリブルをすることができる。（B－４） |
| ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。（B－５） | ・ボール保持者と自己の間に守備者が入らないようにして攻撃に参加することができる。（B－５） | ・味方や教師の言葉掛けを聞いて攻撃に参加することができる。（B－５） |
| ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。（B―６） | ・ボール保持者と自己の間に守備者が入らないようにして攻撃に参加することができる。（B―６） | ・味方や教師の言葉掛けを聞いて攻撃に参加することができる。（B―６） |
| ・ボールを持っている相手をマークすることができる。（B－７） | ・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。（B－７） | ・教師と一緒にボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。（B－７） |
| 思考・判断・表現 | ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。（C−１） | ・提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。（C−１） | ・提供された練習方法から、教師と一緒に自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。（C−１） |
| ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。（C―２） | ・仲間と協力する場面で、役割に応じた活動の仕方を見付けている。（C―２） | ・教師や仲間と一緒に協力し、自分の役割に気付くことができる。（C－2） |
| ・技能の程度を踏まえ、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。　（C－３） | ・技能の程度を踏まえ、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法に気付くことができる。（C－３） | ・楽しむための練習やゲームを行う方法を教師と一緒に見付けることができる。（C－３） |
| ・仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝え、チームへの関わり方を見付けている。（C－４） | ・仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝えている。（C－４） | ・仲間と話し合う場面で、教師と一緒にチームでの活動に参加しようとしている。（C－４） |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・球技の学習に見通しをもって積極的に取り組もうとしている。（D−１） | ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。（D−１） | ・球技の学習に進んで取り組もうとしている。（D−１） |
| ・マナーを守ったり、言葉掛けや拍手などで相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。（D−２） | ・マナーやきまりを守りフェアなプレイをしようとしている。（D−２） | ・マナーやきまりを守り誰とでも仲良くしている。（D−２） |
| ・仲間と協力し、作戦などの話合いに参加しようとしている。（D−３） | ・仲間と協力し、作戦などの話合いに関わろうとしている。（D−３） | ・教師の支援を受けながら、作戦などの話合いに関わろうとしている。（D−３） |
| ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。（D−４） | ・仲間と一緒に練習の補助をしたり会話をしたりして、仲間と一緒に関わろうとしている。（D−４） | ・仲間と一緒に練習に参加し、仲間を認め、応援しようとしている。（D−４） |
| ・場や道具の安全な使い方を考え、健康・安全に気を付けようとしている。（D−５） | ・場の使い方、用具の扱い方、健康に気を付けようとしている。（D−５） | ・教師と一緒に、安全や健康に気を付けようとしている。（D−５） |

※網掛け部分が2年時の本単元の評価規準

　７　指導と評価の計画（１２時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ |
| 指導内容 | 知 | A－１ |  | A－２ | A－２ | A－２ |  |
| 技 |  |  | B－１ | B－４ | B－４B－７ |  |
| 思 |  |  |  |  |  | C－１ |
| 態 |  | D－２ |  |  |  |  |
| 学習過程 | ０１５２０３０４０５０ | １集合、整列、挨拶、健康観察２主運動につながる準備運動（リズム運動・体つくり運動）３ねらいの確認 |
| 　バスケットボールについて歴史特性ルール活動チーム発表授業の流れ | バスケットボールのゲームをしてみよう映像を確認する。課題探求**ボールハンドリング**フィンガーティップコントロールボディーサークルエイト背面キャッチ | **シュート**ドリブルシュートミートシュートドリブルシュート | ねらい１：互いに協力しながら練習し、基本的な技能を身に付けようとすることができる。　～個人スキル育成期～パス２人組パス三角パスルッキングパス | 　ドリブルスピードドリブルジグザグドリブルキープドリブル | **シュート****パス****ドリブル****グループで話合い練習メニューを考える。**　練習メニューを考えよう。（復習） |
| ポイント確認 |
| 練習・実践 |
| 振り返り　次時の確認　挨拶 |
| 片付け |
| 評価 | 知 | 学習カード | 学習カード | 学習カード | 学習カード | 学習カード | 学習カード |
| 技 |  |  | 観察 | 観察 | 観察 |  |
| 思 |  |  |  |  |  |  |
| 態 |  | 観察 |  |  |  |  |
| 準備物 | スクリーンプロジェクター | 学習カード　ホワイトボード　ボール　ビブス　タブレット端末　プロジェクター |
| 他教科との関連 | 体育理論「ルール」「マナー」保健「怪我や疾病の予防」「運動の楽しさ喜び」「運動領域の特性や魅力」「共生社会の実現」自立活動「人間関係の形成」「コミュニケーション」 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ７ | ８ | ９（本時） | １０ | １１ | １２ |
| 指導内容 | 知 |  |  |  |  |  |  |
| 技 |  |  |  |  |  |  |
| 思 | Ｃ―４ | Ｃ―１ | Ｃ―４ | Ｃ―１ |  |  |
| 態 |  | Ｄ―３ |  | Ｄ―４ | Ｄ―２Ｄ―５ | Ｄ－３ |
| 学習過程 | ０１０２０３０４０５０ | １集合、整列、挨拶、健康観察２主運動につながる準備運動（リズム運動・体つくり運動）３ねらいの確認 |
|  |  | ねらい２：チームの仲間と協力し、簡単なルールについて理解を深め、ゲームを楽しむことができる。～チームスキル育成期～ |  | チーム練習

|  |
| --- |
|  |

リーグ戦 | ねらい３：チームの仲間と協力し、ゲームを楽しむことができる。～スポーツライフ育成期～　チーム練習　リーグ戦表彰まとめ |
| ミニゲーム動画確認ゲーム分析課題発見（話合い）　・シュート | 課題発見練習メニューの選択練習次回のゲームに向けて作戦タイムチームスキル育成① | ミニゲーム動画確認ゲーム分析課題発見（話合い） | チームスキル育成②課題発見練習メニューの選択練習次回のゲームに向けて作戦タイム |
| 振り返り　次時の確認　挨拶 |
| 片付け |
| 評価 | 知 |  |  |  |  |  |  |
| 技 |  |  |  |  |  |  |
| 思 | 学習カード観察 | 学習カード観察 | 学習カード観察 | 学習カード観察 |  |  |
| 態 |  | 観察 |  | 観察 | 観察 | 観察 |
| 準備物 | 学習カード　ホワイトボード　ボール　ビブス　タブレット端末　プロジェクター |
| 他教科との関連 | 体育理論「ルール」「マナー」保健「怪我や疾病の予防」「運動の楽しさ喜び」「運動領域の特性や魅力」「共生社会の実現」自立活動「人間関係の形成」「コミュニケーション」 |

８　本時の学習

A:自ら考え行動できるグループ（高等部2段階）

B:自ら考え行動できるグループ（高等部2段階）

C:友達や教師の働きかけによって行動できるグループ（高等部1段階）

D:常時支援が必要な生徒

1. 本時の目標

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | グループ・段階 | 目　標 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ＡＢ | 高等部２段階 | 仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝え、チームへの関わり方を見付けることができる。 |
| Ｃ | 高等部１段階 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができる。 |
| Ｄ | 支援を常時必要とする生徒 | 仲間と話合う場面で教師と一緒にチームでの活動に参加することができる。 |

1. 本時の評価項目

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | グループ・段階 | 評価項目 |
| 思考・判断・表現 | ＡＢ | 高等部２段階 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝え、チームへの関わり方を見付けることができたか。 |
| Ｃ | 高等部１段階 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができたか。 |
| Ｄ | 支援を常時必要とする生徒 | 仲間と話合う場面で教師と一緒にチームでの活動に参加しようとすることができたか。 |

９　学習過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容及び活動 | チーム別学習活動及び教師の支援 | 資料・準備・　消毒液・　ビブス・　ホワイトボード・　健康チェックカード |
| Aグループ（赤ビブス） | Bグループ（黄色ビブス） | Cグループ（青・緑ビブス） | Dグループ（ビブスなし） |
| 高等部2段階 | 高等部1段階 | 常時支援を必要とする生徒 |
| 　　　　　　　　　　　　　　　はじめ　　１５ | １　授業準備を行う。２　準備運動をする。 |  | ・　授業前にグループの健康係が、人数確認、体調チェックを行い、自分と仲間の健康状態を確認させる。（Ｔ１）・　感染症対策のため体育館入口で手指消毒を行う。（Ｔ３）・　感染症対策のため体育館の窓を開け換気をするように指示する。（Ｔ１）・　チームのビブスを着用するように促す。（Ｔ２～Ｔ５）・　ホワイトボードに本時の流れをわかりやすく提示する。（Ｔ１） | チームで考えたリズム準備運動をする。・　準備運動と体つくり運動で行った「リズム運動」を行う。自分たちで考えたリズムジャンプメニューをリーダーが、声掛けをしながら行わせる。（Ｔ１）・　拍手をして場を盛り上げることで、ジャンプすることを促す。（Ｔ２～３）・　確認が必要な場合は、タブレット端末やリズムジャンプカードを用いながら動きを確認する。（Ｔ１～Ｔ５） | 集合した生徒から授業準備を行う。・サーキットトレーニングで使う道具を教師と一緒に準備させる。（T７～Ｔ１０）・　体育館の周りを使いサーキットトレーニングを行わせる。・　１周したら表にシールを貼り、生徒が活動に継続して取り組めるように工夫する。・　終わったら教師と一緒に片付けさせる。（T７～Ｔ１０） | ・　タイマー・　ジャンプ棒・　ジャンプカード・　タブレット端末・　音楽ＣＤ・　表 |
| なか　　２５ | ３　本時の学習内容について教師の話を聞く。1. 流れの確認
2. ミニゲーム
3. ゲームをみよう。
4. 分析しよう。
5. 発表しよう。
6. ふりかえり

４　ミニゲームをする。・　ホワイトボード・　ペン・　タブレット端末・　ポジションカード５　プレイを分析しよう。プレイについて話し合う。・　前時に撮った映像を見て、次のチャレンジタイムに向けて、教師と一緒に攻防の確認をして、ポジションを話し合わせる。（Ｔ４）・　グループで活動する場面や話合いを多く設定することで仲間と関わる時間を増やし、連帯感や仲間意識を持たせる。（T７～Ｔ１０）・　「パス」、「シュート」、「ボールを保持した回数」の３つの観点で見るグループに分かれ、タブレット端末の映像を見る。その後、各観点から発表を行い、自分たちのグループに足りない力をみんなで話し合わせる。Cは、「シュート」の観点のみ見る。（T1）・　前時まで学習プリントやタブレット端末を利用し、全員が話合いに参加して自分の意見を言えるように促すことによって、ポイントを共有し連帯感を意識させる。（Ｔ１～T3、T５～T7）・　生徒が考えを整理したり、書き出したりする時間を多く設定することで話合いへの関わり方やマナーも意識させる。（T1）・　グループのコーチ役は、生徒からの発問があった場合は、発問に答えたり、助言をしたりする。（Ｔ１～Ｔ３）・　話合いの時には、マスクを着用させ、感染症対策を徹底させる。・　分析が終わったチームは、分析結果に応じた課題や練習メニューを時間まで考えさせる。（Ｔ１～Ｔ６）チャレンジタイムをする。・　ディフェンス（守るチーム）、オフェンス（攻めるチーム）それぞれのポジションにつく。オフェンスは、ディフェンスを交わしながらシューターにパスをする。パスを受けた生徒は、教師と一緒にシュートをする。得点が入ったら記録する。（Ｔ７～Ｔ１０）・　具体例を交えながら教師も一緒に話合いに参加することで、積極的な意見を促し、互いの意見を言い合えるような雰囲気づくりをする。（Ｔ５）・　互いのよさについて伝え合わせることで、学んだことを客観的に確認させるとともに、チームの関わり方について気付かせる。（Ｔ２～Ｔ３） |  | ミニゲームをする | 係の号令に合わせて、始まりのあいさつをする。・　リーダーとしての意識がもてるように、キャプテンにチームを整列させる。（Ｔ１）・　「お願いします。」のあいさつの後に、3秒間礼ができているかチェックする。（Ｔ２～Ｔ５）・　本時の学習の流れや目標を視覚的に示し、簡潔に説明することで学習に見通しをもたせ、安心して授業に取り組ませる。その際、体育座りの姿勢ができる生徒は、体育座りの姿勢で聞く態度を意識させる。（Ｔ１～Ｔ１０）・　前時までの学習で取り組んだ個人技能や各グループの課題を思い出させ、本時の目標である「チーム（個人）のプレイを分析しよう。」を確認する。（Ｔ１）・　前時の活動が思い出せない生徒には、学習カードを見るように促す。（Ｔ２～Ｔ５）本時の目標「みんなで話し合って、チーム（個人）のプレイを分析しよう。」・　　4人対4人で、ミニゲームを行う。新型コロナウイルス感染症対策として、試合前は消毒係が消毒を行い、人数を少なくしてタブレット端末で撮影しながらゲームを行う。ゲームに入っていない生徒に撮影係を担当させる。（T1）・　事前に約束事を伝え黒板や壁に掲示し、自らルールやマナーを確認させる。ルールやマナーが守れたときに称賛し、生徒の意欲を高めさせる。（Ｔ１～Ｔ６） | 本時の学習の流れについて、教師の話を聞く。ミニゲームを支える・　それぞれの役割（消毒係・点数係・応援係など）を確認させる。（T７）・　仲間の良いプレイがあった際に、称賛し場を盛り上げることで、仲間を認めたり応援したりする気持ちなどに触れさせる。（T７～１０） | ・　点数版・　ボール・　ホイッスル・　応援グッズ・　流れ表・　学習カード　（キリスポファイル） |
| まとめ　　１０ | ６　グループで本時の振り返りをする。７　まとめの話を聞く。８　終わりの挨拶をする。 | 各グループで振り返りを行う。・　「ありがとうございました。」の挨拶の後に、3秒間礼ができているかチェックする。（Ｔ２～Ｔ５）・　挨拶の後、保護ネット、保護マットなど自分の係を中心にグループで協力して片付けさせる。（Ｔ１～Ｔ５） | 号令に合わせて終わりの挨拶をする。・　体育座りをして聞く態度ができているか確認する。姿勢が崩れている生徒がいれば言葉掛けを行う。（Ｔ２～Ｔ６）・　各グループの分析結果や課題、次回取り組む練習メニューなど話し合ったことを発表させる。（Ｔ１）・　次時は、課題に応じた練習を選択して、行うことを伝える。（Ｔ１）本時の振り返りを行う。・　学習カードを使って、自己の振り返りを３段階評価の中から選択させる。合わせて感想を記入し、グループ内で共有させる。（Ｔ１～Ｔ５）・　グループで振り返りを行うときには、リーダーを中心にグループでまとめたホワイトボードを活用しながら話し合いが円滑にできるように促す。他の人が発表している時には、静かに話を聞くように促す。（Ｔ２～Ｔ５） | ・　チャレンジタイムの結果を確認させ、チームや個人で評価をさせる。（T７） |  |

※下線部は、「指導と評価の計画」手立ての一体化表より抜粋

・　振り返りボード

１０．本単元に関する生徒の実態及び本時の目標　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔評価規準〕◎・・よくできた　　〇・・できた　△・・もう少し

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 氏名 | 単元に関する生徒の実態 | 本時の目標 | 評価項目 | 評価 |
| 高等部２段階 | A | 消極的な性格で、自分の意見や考えをもっていても発言することが苦手。選択肢やボードを使うと自分の考えを他者に伝えることができる。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝え、チームへの関わり方を見付けることができる。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができたか。 |  |
| 相手の意見を肯定的に受け入れて、チームの課題解決に向けて関わることができたか。 |  |
| B | 全体のバランスを考えながら自分の意見を言ったり、他の方法や案を提案したりすることができる。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝え、チームへの関わり方を見付けることができる。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができたか。 |  |
| 相手の意見を肯定的に受け入れて、チームの課題解決に向けて関わることができたか。 |  |
| 高等部１段階 | C | 周囲の状況関係なく、自分のペースやタイミングで意見を言う。友達が発言している時も、最後まで聞かずに話し始めたりする。教師の言葉掛けがあると落ち着いて話すことができる。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができる。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができたか。 |  |
| D | 話し合っている内容を十分に理解できていないことが多い。多数決の場合、自分の意見が通らず納得していない様子が見られることがある。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができる。 | 仲間と話合う場面で、自分の考えや意見を伝えることができたか。 |  |
| 常時支援 | E | 常時支援が必要である。嫌な活動があると座り込んだり、大きな声を出したりすることがある。 | 仲間と話合う場面で教師と一緒にチームでの活動に参加することができる。 | 仲間と話合う場面で教師と一緒にチームでの活動に参加しようとすることができたか。 |  |
| F | 教師の言葉かけが常時必要である。話合いの時にカードの選択をすることができる | 仲間と話合う場面で教師と一緒にチームでの活動に参加することができる。 | 仲間と話合う場面で教師と一緒にチームでの活動に参加しようとすることができたか。 |  |

※生徒全員分作成しているが、参考資料として各グループ２名ずつ記載。